

# 防災・減災の輪

かがわ自主ぼう連絡協議会  
会報 第14号 (2008・5)  
事務局川西地区自主防災会

かがわ自主ぼう結成1周年 おめでとうございます

香川県防災局長 川部英則

かがわ自主ぼう連絡協議会の結成1周年、誠におめでとうございます。昨年度は、4月に震度4の地震はありましたが、県内では、大きな災害の少ない1年でありました。

迎えた平成20年度は、香川県にとってメモリアル・イヤーであります。手袋創業120周年、オリーブ植栽100周年、ハマチ養殖80周年、瀬戸大橋開通20周年。県内各地で記念イベントが開催され、にぎわう1年になればと期待しております。

このうち、4月13日開催の瀬戸大橋マラソンに、防災局のメンバー7人と参加しました。当日は、雨の予報にもかかわらず、快晴とまではいかないものの、絶好のマラソン日和となりました。

ところが、好事魔多しではありませんが、岡山県から参加された60歳代の男性ランナーが頑張りすぎたのか倒れ、心肺停止状態に。たまたま、そこにマラソンに参加していた消防職員が居合わせ、心臓マッサージ、人工呼吸、AEDと手際良い対応により、十分後に蘇生、元気に奥様と岡山県に帰られたとか。奥様によると、娘さんを亡くしたばかりで練習不足気味での出場だったとか。「もう少しのところ、一人ぼっちになるところでした」との言葉に、防災の基本を教えられたような気がします。

それは、普段の練習（訓練）が重要だということ。いざという時、一番頼りになるのは、今隣にいる人ということです。かがわ自主ぼうの皆さんは、全国的にもトップレベルの団体から、今まさに生まれたばかりのグループまでの集まりであります。いずれも「頼りになるお隣さん」であることには間違いありません。是非、今後とも訓練に励んでいただくとともに、会員の皆さんの結束を強め、着実な飛躍、発展を遂げられますようお願いし、あいさついたします。

防災局職員と瀬戸大橋マラソン  
15km完走(4月13日)

健康ウォーク&防災フェア in かわにし  
にも参加ありがとうございました





# 健康も防災も転ばぬ先の杖から

## 香川大学工学部 長谷川教授

4月20日の日曜日に研究室の学生と一緒に丸亀市川西地区の第10回健康ウォーク・第6回防災フェアに参加した。健康ウォークの会場では、地震体験車、AEDの取り扱い説明、避難所の設営コーナー等が見学でき、防災グッズが当たる防災クイズも準備されていた。当日は、新緑香る風を受け、学生と12kmを完歩して、長期保存ミネラル・ウォーターを頂戴した。また、災害時の炊き出し訓練も兼ねた婦人会によるバラ寿司とうどんのお接待を受け、疲れが吹き飛ばす思いをした。健康づくりと防災が一体となったすばらしい行事を成功に導いた岩崎正朔会長ご夫妻はじめ川西地区まちづくり協議会と川西地区自主防災会の皆様に厚くお礼を申し上げます。

実は、去年の11月から約2ヶ月半入院してしまい、その前後を含めて約6ヶ月間防災どころではなかった。改めて、健康あつての防災と、大いに反省した。しかし、病気のおかげでいろいろ勉強になり、大事に至らなければ、病気をすること決して悪いことばかりとはではないと思うようにもなった。病気も災害も被災経験があれば、その後の心構えが変わってくる。できるなら健康なうちに、また被災する前にそのリスクに気がつき、大事に至らないようにしたいものである。

ところで、県立中央病院の移転先が朝日町のJT跡地に決まったことを、退院後に新聞で知った。移転先に選ばれたJT跡地のある埋立地は、南海地震時に液状化や津波によって周囲が大きな被害を受ける場所である。このため、長期間ライフラインが機能せず、災害拠点病院として機能を発揮するどころか、入院患者の転院すらできない状態になりかねない。防災から見たら最悪の選択と思われる。当地点が選択された理由の一つとして、建替えのスペースが確保できることが挙げられているが、災害時の機能確保と比較してどちらが優先されるべきだろうか？

病気も災害も最悪の事態を避けるためには、大きなリスクに気がつき、改めるべきところは改める、そしてできることはすぐ実行することが重要である。健康も防災も、転ばぬ先の杖からだと思う。

### 健康ウォーク&防災フェア in かわにし、参加ありがとうございました





# 香川県防災局の皆さまからのメッセージ

防災局 田村次長様から

はじめまして。4月1日付けで防災局次長に着任しました田村と申します。

これまで、土木部で主に水防などの風水害対策に取り組んできましたが、今後は、地震、火災など危機管理全般に携わっていくことになり、たいへん大きな責任を感じています。

住民の高齢化や自然と遊離した生活が進む中、危機を的確に察知し対応する能力など、いわゆる地域の防災力の低下が進んできていると言われてはいますが、このような中、昨年、川西地区の呼びかけで「かがわ自主防連絡協議会」が設立され、各地域が連携し様々な訓練や勉強会に取り組まれておられることは、地域の防災力強化だけでなく、様々な分野で地域間の連携を深める大きな役目を果たしていると考えています。

地震など突然起こる危機に対して、あわてず対処できる訓練や機材の整備等を怠らぬことはたいへん重要なことです。そして、これらを支える大切な防災の基本は、一人一人が自分の家族や隣人を必ず守りたいと考える「やさしさ」、「愛情」でないかと思っています。

微力ですが、自主防の皆様と力を合わせて、香川県の防災対策に努力して参りたいと考えておりますので、今後ともよろしくお願ひします。

防災局危機管理課 古吉課長補佐様から

本年4月から危機管理課で勤務することになりました古吉と申します。南海地震など災害から県民の生命や財産を守るという、大変重要な仕事を任せられ身を引き締まる思いです。

私自身、正直に申し上げると、これまで防災意識は低かったです。しかし、危機管理課に来て南海地震が起これば県内の震度は5弱以上であるという予測を知り、大変驚きました。今後30年で南海地震の起こる確率が50%であるということは、新聞報道などで知っていたことを聞いたときは、阪神淡路大震災の時の記憶がよみがえるとともに、防災意識が一気に高まりました。

最近、家族と食事をすまるときも防災の話題が豊富になり、非常食をはじめ我が家の防災対策を進めています。私の場合のように、南海地震のごとを詳しく知れば防災意識が一変する県民は多いのではありませんかと思ひます。今後、この機会を捉えて訴え取組んでいきますので、よろしくお願ひ申し上げます。

## 防災局危機管理課 山地様から

このたび、4月1日の人事異動により、香川県危機管理課・危機管理南海地震グループに三木町役場から、出向してまいりました山地隆一と申します。

三木町役場には、平成11年度採用で本年度で10年目となりますが、防災に関することについては、特に気に留めることがありませんでした。

また、私の認識としては、平成16年の台風23号により三木町も大規模な災害を受け、その後、三木町においても防災意識が高まっていたと思います。

今回、過去の会報「防災・減災の輪」を読み、県内での自主防災組織のさまざまな活動や防災に関する講演について知ることができました。また、設立が平成19年3月でまだ1年あまりという短い期間でありながらも、大変意欲的な活動をされていることに驚きました。

これからの危機管理課での業務に当たり、県民のみなさまにさらなる防災について関心を持って頂けるような取組をしていきたいと思っております。

最後になりましたが、こういった貴重な場を設けて頂きましてありがとうございます。

## ●ダンボール製タンス補強について

ダンボール製につきましては、県内の某企業により、特注品を試作して500～1,000個単位でいくらになるのか調査いたしました。Fダンボール会社をお願いしていたダンボール製の家具倒壊防止用の試作品ができたので、見て欲しいとの連絡が入った。500個まとめて購入すると、単価200円位で納入できるとのこと。これも、かがわ自主ぼう春の研修会での会場からの、ご意見により発案があったもの。多くの方の減災に繋がる知恵だと思います。今後も、この「かがわ自主ぼう」のネットワークを通じて、安心・安全なまちづくりの輪を広げていきたいと思っております。

